令和5年度東糀谷小学校経営計画

令和5年4月
大田区立東糀谷小学校
校長　菊原　寛之

「おおた教育ビジョン」
～豊かな人間性をはぐくみ、未来を創る力を育てる～
・社会の変化に主体的に対応し、未来を創る力を育成する
・「知」「徳」「体」の調和のとれた成長を図り、豊かな人間性を涵養する
・意欲にあふれ、個性と可能性を伸ばす学びの場を創出する
・地域の特色を生かし、学校・家庭・地域が連携・協働して子どもを育てる

地域

「学びの場」

コミュニティスクール→・地域と一体となった教育活動
新教科「おおたの未来づくり」
「地域を見つめ　地域に学び　地域に還す地域学習」
・ゲストティーチャーとしての招へい
・教員の地域行事参加・地域教材の開発

保護者

「通わせてよかった」

・保護者への連絡「正確」「迅速」「丁寧」
・意見交換（よく聞き、適切な助言等を行う」
（一人一人に応じた教育　ex.アレルギー対応）
※教員を育ててくれる保護者の存在
・学校に協力したい（保護者ボランティアの活用）

子供

「楽しい」

・教育活動に対する満足
（やって楽しい、考えて楽しい・・・分かった、できた→成長できて楽しい→自信がもてた
・友達と関わることに対する満足
（一緒にやって楽しい、教えられてよかった、教えてもらってうれしい、信じてもらった、信じられた・・・）

学校

「子どもを育てる学校から、子どもが育つ学校へ～子どもの心が育つ学校へ～」
～自分で考えて、自分で行動する子～
学年団がチーム（複数の教員での対応）で学年経営にあたる方式（ハウス方式）
を定着させ、人材育成・働き方改革 を両立させながら組織的対応の日常化を目指していく。
同時にすべての学級での崩壊を防ぎ、安定化を図る。

東糀谷小学校
高学年学年団

わたし達は、このメンバーで
5･6年生全員を見守っていきます!!

6-2担任/高学年団団長
木下　俊一

5－1担任・学年主任
吉田　祐希

6－1担任・学年主任
田中　瑛

5－2担任
杉山　隆

養護教諭
宮崎　彩夏

音楽専科
田仲　留衣

日本語
斎藤　貴子

学校目標　「基礎学力の形成」「豊かな心の育成」

思いやりのある子

◎人を大切にする力を育てる
◎自分を表現する力を育てる

※いじめ・仲間外れは絶対に許さない
・あいさつ奨励活動の充実
・「特別な教科・道徳」の充実
・異学年交流活動の充実
・人権週間での啓発
（人権標語・人権集会の充実）
・ソーシャルスキルトレーニング
・グループエンカウンターの計画的実施
・良好な人間関係の構築
（はいどうぞ→ありがとう）

進んで学ぶ子

◎自分の考えを持つ力を育てる
◎チャレンジする力を育てる
※自分で考え、自分で行動する

→学習習慣（学びの基礎）の徹底
・言語活動の充実（作文・日記指導の充実→自分の考えを相手に伝える）
・「話す・聞く」に焦点を当てた学習
・討論型の授業の充実→主体的・対話的な授業づくり
・ノート指導の徹底・充実
→「ノートは思考の作戦基地」

健康な体をつくる子

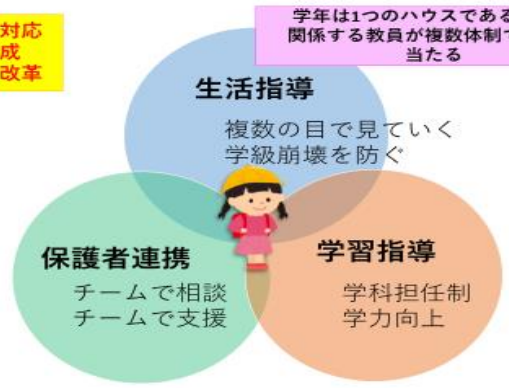
◎チャレンジする力を育てる
※生活習慣の確立

→早寝早起き朝ごはんの啓発
※「先ず獣身を成して後に人心を養え」
身体の発育・身体の感覚を高める
・体育科学習の一層の充実
→体幹を鍛える・運動量の確保
・体育朝会の充実
・体育学習カードの活用
→意欲的に取り組ませる工夫。
・行間体育（遊びの場の設定）
・望ましい食習慣のできる子に育てる。
→食に対する興味・関心を高める。

学年教員チームによる日常的な稼働を目指すハウス方式

○組織的対応
○人材育成
○働き方改革

学年は1つのハウスであるとし、関係する教員が複数体制で指導に当たる



◎目指す学校の目標を実現するための、基礎となる条件

★基礎学力形成
→基礎学力形成が確実になされていれば、必ずそこで子どもたちの人間的、人格的向上も図れる。
→基礎学力形成は、真実と虚偽、正と否、深と浅、などを論理的に知的に峻別していく。
→人間としての望ましい成長、進歩、向上を促す営為である。

★自律→自分で考えて,自身をコントロールできる。子ども自身で調整を行ったり、問題を解決したりする→自律的態度
→教師の指導の下に一つ一つ、子どもに染み込ませて身に付けていくもの
（気持ちのいい挨拶ができる、返事がきちんとできる、身の回りの整理ができる、忘れ物をしない、友達となかよくする、最後まできちんとやり通す、しゃべるのを我慢する）

※規範意識・学習・生活習慣を家庭と連携して身に付ける→しつけ3原則→返事・あいさつ・いすをしまう・くつをそろえる
「心が変われば態度が変わる　態度が変われば行動が変わる　行動が変われば習慣が変わる
習慣が変われば人格が変わる　人格が変われば運命が変わる　運命が変われば人生が変わる」

※三かけの励行→「子どもたちに　目をかけ　声をかけ　手間をかける」

※学級・専科経営の充実
①学級目標・専科目標の達成システムの構築　②目標達成の可視化 ③大切なことは合言葉にする ④学びの基礎・五つの約束の徹底

※特別支援教育の充実 「特別支援が必要な子どもが居心地のよい学校は、どの子供にとっても心地よい学校である」

※いじめ防止基本方針の徹底
「いじめ」には，次の２つのシステムが必要である。
１　いじめ発見システム→「触診」「問診」「精密検査」の三段階。
「机を離す」「発表をひやかす」など学級の様子から教師が判断する触診。アンケートを通していじめの有無を判断する問診。
例えば「一人ぼっちの子調査」といった特定の観点に沿った具体的調査を実施する精密検査。
２　いじめ対処システム
いじめを発見したら，対処しなければならない。
①解決までの危機管理　②深刻化する前の教室での危機管理　③いじめの事実記録　④本人、保護者を安心させる危機管理
２つのシステムが機能することが、いじめから命を守り、いじめにかかわる人の人生を守ることにつながる。

校内研究　新教科「おおたの未来づくり」研究テーマ（仮題）
「地域を見つめ　地域に学び　地域に還す　東糀谷の未来のまちづくり～豊かな心を育てる～」